教職員向け

アナフィラキシーを知って防ごう！

アナフィラキシー・食物アレルギーは、除去を意識した献立、調理室の環境整備、配膳の管理等を行っていても、思わぬ事故が起きることがあります。事例を参考に、事故を未然に防止するとともに、万が一発生した場合の対応を再確認しておきましょう。

こんな事例があります

食物依存性運動誘発アナフィラキシー

昼食にコンビニで購入したサンドイッチ（卵、ハム、ツナ、チーズ入り）を食べてすぐに授業に参加した。体育の授業で持久走をし、体育館を周回していたが、呼吸が苦しくなり授業担当者に申し出た。授業担当者が体育館に座らせて経過観察をしたが、呼吸の苦しさに加えて喉のかゆみと顔面の発赤・腫れが出現したため保健室に連絡した。（高２・女子）

食物アレルギー

給食時、乳アレルギーの本児に誤って牛乳を配膳してしまい、本児が牛乳を100cc飲んでしまったところ、痒みや発赤、喘鳴などのアレルギー反応を発症した。（２歳・男児）

（令和２年度災害共済給付データより）

※食物依存性運動誘発アナフィラキシーとは

アレルゲン（アレルギー症状を引き起こす物質）となる食物に関して、普段は食べても反応が出ない量を摂取した後に、運動が刺激となってアナフィラキシー反応を起こすことがある食物アレルギーです。



未就学児では、配膳時の間違いなどによる誤食・誤飲によって起こることがあります。
中高生では、食物依存性運動誘発アナフィラキシーも多く発生しています。



「間違いなく配食できたか、複数で確認し、チェック表に記入する。」
「教職員全員がアナフィラキシーに関する基礎知識と対応児童生徒等の実態、緊急時の対応方法について共通理解する」
など、未然防止や万が一発生した場合の対応が必要です。

参考：「学校の管理下における食物アレルギーへの対応」　調査研究報告書

JAPAN SPORT COUNCIL　日本スポーツ振興センター　学校安全部　https://www.jpnsport.go.jp/anzen/

食物依存性運動誘発アナフィラキシーへの対応

教職員向け

食後２時間以内に起こることが多いが、４時間後でも起こることがある



運動中または直後にアナフィラキシーを疑う症状が出現

軽い症状なら５分ごとに観察し、医療機関の受診やエピペンを準備

心停止・呼吸停止

心停止の救命処置

全身症状
- ぐったり
- 意識障害
- 失禁
- 顔色不良
- 爪が青白い
- 血圧低下
- 脈不整

２つ以上の臓器の症状

軽い症状

呼吸器症状	消化器症状	皮膚症状
● 口やのどのかゆみや違和感 ● 鼻水・くしゃみ ● 軽い数回のせき	● 吐き気 ● 軽い腹痛 ● 嘔吐１回 ● 下痢１回	● かゆみ ● 数個のじんましん ● 部分的な赤み ● 唇の腫れ ● まぶたの腫れ





重い症状

呼吸器症状	消化器症状	皮膚症状
● のどや胸の締め付け感 ● 息苦しい ● 喘鳴(ぜーぜー) ● 声がれ ● 連続する強いせき	● 強い腹痛 ● 嘔吐２回以上 ● 下痢２回以上	● 全身のじんましん ● 全身の発赤 ● 強いかゆみ ● 顔全体の腫れ







重い症状が一つでもあれば
直ちにエピペン(エピネフリン自己注射薬)を大腿に打ち、119番通報







令和２年度スポーツ庁委託事業 学校における体育活動での事故防止対策推進事業
「スポーツ事故防止ハンドブック（解説編）」 P14～16
「スポーツ事故対応ハンドブック（フローチャート編）」 P8～9
を御活用ください。

JSCホームページ「学校安全Web」からダウンロードできます！！
https://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/bousi_kenkyu/tabid/1956/Default.aspx#handbook

JAPAN SPORT COUNCIL 日本スポーツ振興センター 学校安全部 **https://www.jpnsport.go.jp/anzen/**